

ワーカーズコープあざみ 子育てシンポジウム実行委員会

子育てシンポジウム

板橋区産文ホール 第1会議室

2001年7月15日(日) 13:30 ~ 16:30

7月15日、東京都板橋区の産文ホールで、「子育てシンポジウム」が開催されました。

シンポジウムではまず、アトム共同保育所所長の山本健慈さんの記念講演があり、続いて東京都板橋区子供家庭支援センター主任主査の阿部勝さん、東京都江東区・神愛保育園園長中林節子さん、ワーカーズコープあざみの石郷岡しずかさんによるミニシンポ「ひとりぼっちをなくそう！」次に参加者全員によるQuestion Timeと短時間ながら盛りだくさんの内容でした。

参加者は労協の保育園事業所のメンバー、労協の若手組合員、地域の子育て中の方々など、大雨の天候にもかかわらず、熱心な討論となりました。

協同総研では、このシンポジウムの実行委員会に加わり、ワーカーズコープあざみを中心とした、労協が地域で行う保育事業・子育て支援事業に関わっていく予定です。

今回の所報では、実行委員の中心としてシンポジウムを企画した、センター事業団保育園事業所の
大竹幸子さんにシンポジウムのまとめを書いていただき、山本健慈さんの記念講演を掲載します。

(協同総研 菊地 謙)

労協の保育園と子育てシンポジウム

日本労協連センター事業団

北部第2事業所 大竹幸子

事業所の紹介

センター事業団北部第2事業所は、保育業務の委託事業を中心に運営しています。都立の医療センター、私立病院の職員のお子さん(生後2ヶ月から3歳未満)を対象に乳児保育園として開設し、開園19年目を迎えたひ

まわり保育園(板橋区)をはじめに、13年目のたんぼぼ保育園(東村山市)12年目の日大保育所(板橋区)と3ヶ所の委託を現在受けています。院内の乳児保育という事もあり個々の保育年数は短く、毎年の園児数も異なります。各園10~15名位の園児を4、5人の職員(パートを含む)で保育しています。

長年に亘って委託業務の運営だけでは事業そのものの発展は難しい点が多いと指摘されながら、それでも他の事業に進むことが出来ないままにいました。そんな中でしたが7年程前にやっと職員の中で“自分たちの仕事を深めたい、学習したい”という思から保健婦さんによる育児事情の現状報告や名古屋市の協同保育園見学、専業主婦の育児困難についてなど事業所内研修を重ねながら、また社会的背景の変化から地域に向けての保育事業の必要性を感じ4年前に『在宅保育支援あざみ』を立ち上りました。

それまでの保育園内の限られた場所から各家庭に出向き個別の関係から成り立つ仕事に、戸惑いと不安を感じながらも厳しい環境で子育てをしている家庭や孤独な中での育児の実態を少しずつ知る機会となりました。あざみの活動は、加入する家庭が増える一方で、託児時間の不規則さ等からシッター不足も問題になりはじめ、支援者(シッター)に専門知識を持って保育にあたることの大切さを求めることから、1999年に1回目の子育て支援者養成講座を開きました。その後も「社会医療団・子育て支援基金」より助成金取得が決定し年3回の講座を開講、続けて東京都からの助成金で4回目の講座も開講し、養成講座の受講生が中心になってワークスコープあざみとして保育園から一歩外に出た活動もはじまりました。お話会(絵本の読み聞かせやミニ人形劇)、児童館との協力で中学生のボランティア活動の一環としてあざみのボランティアと生徒との人形劇を地域の



保育園にて上演し、2001年1月は障害を持つ子どもの支援講座も開きました。しかし、



事業的に在宅支援だけでは経営の難しい点も有り、あざみ発足2年目頃から受注してきた集団託児事業に採算を求めるのが実状となっています。また、今年4月から東京都の児童会館(渋谷区)のびのび広場の事業もはじまり、あざみは今、これからの活動の方向性について考える時期に来ていると思います。

子育てシンポジウム

委託事業の経営的行き詰まりを感じる中で、これまで職員間の呟きでしかなかった保育園の理想「自分たちの保育園があったら・・・」「3現場の保母が一緒に働けたら、」と言う、遠い夢だった思いを“実現しなければならない目標”として、先ずはその為の話し合いや勉強会をはじめました。そして東京の中でも色々な地域で求められている支援センター等の活動は、最も必要性の高い育児事業であることに気付きました。毎日のようにニュースに流れる痛ましい虐待事件、育児の複雑な問題。厳しい社会環境の中で子育ては将来の不安もあり、情報過多の現状そのものが悩める原因となる様に思います。また、核家族化の影響や地域社会の関わりが煩わしいと感じる世代の親たちにとって、悩みを打ち明け相談しながら解決する方法を見つける事が困難となっています。

そこで、地域に根ざす保育支援活動とし



て、専門家がいて、悩みを共有する友がいて、素敵な玩具があるような場所をつくり、孤独

に悩み家の中に籠ってしまわずに気軽に立ち寄れるような場所作りの仲間を増やしていきたいと考え、7月15日“子育てシンポジウム『伝え合おう！語り合おう！子育ての楽しさを』”を計画しました。

計画準備にあたっては、事業所長を中心にセンター事業団・東京ブロック北エリアスタッフ、協同総研など、色々な分野から職種枠を外し実行委員会組織によって勉強会が開かれ、シンポジウムの内容が検討されました。保育園事業所の職員は、実際5月からの途中から参加となり“支援活動とは？”と言うところから資料収集に始まり、会議に出席できなくとも職員全員で取り組む意識を持ち、支援活動の交流会等にも参加しました。6月になり毎週のように会議が重ねられる中で、私自身は保育現場の経験だけで果たして何ができるのか本当の意味で育児の悩みを理解できているのか、親としての経験がない者としては内容の深刻さにどうやって、会に参加したらいいのか悩みました。そんな時、今現在子育て中の実行委員の仲間と会話することで、無意識のうちに励まされ親の思いや現実を知り、不安ながらも準備を進め、記念講演や3人のかたのミニシンポの他に出席者参加型のQuestion Timeなどの内容を煮詰め検討し当日を迎えました。

初めての経験の中で戸惑うところも多くありました。終えてみて感じたことは、何らかの形でこの実行委員の組織や手伝っていただいた方々がこれからも関れる枠作りを考え、せっかく作り出したインターネットのホームページの継続や学習会の積み重ねが保育園事業所の今後の方向性にも影響すると思いました。シンポジウムの成功か否かの評価については、参加状況・事業の運営の他、簡単に判断できない部分があると思います。しかし実際の現場では今、支援センターや学童保育などこれまでにない色々な依頼が増え、自分たちの事業に取り組む姿勢を問われています。

これまでの経験を生かして、悩みながらも不安ながらも、新たな挑戦をして行くことが必要なのだと思いました。

